

2021年8月3日

報道関係各位

中部学院大学短期大学部
社会福祉学科

全国に先駆け、介護を学ぶ学生が授業の一環で

3Dプリンタを使い福祉用具を製作

中部学院大学短期大学部社会福祉学科介護福祉コース（学科長 吉川杉生）は、科目名「生活支援技術（介護Ⅲ）」において、介護学習にICT技術を活用しようと、デジタル工作技術「3Dプリンタ」を使って独自の福祉用具を考案して製作するという全国的に極めて珍しい授業（※）を展開しています。

同学科ではこれまで、2016年度から3年間かけてデジタル工作技術を生活支援に生かした介護人材養成プログラムを開発してきました。2019年度からは介護サービスの質の向上を目指した「高度介護人材育成プラットフォーム」づくりを進めてきました。

今年度からは初めて、カリキュラムとして「3Dプリンタを使った福祉用具の製作」を取り入れました。授業のねらいは、福祉用具を考案して製作する中で、学生は、介護施設などの利用者の利便性を図る視点を持つとともに、介護分野での問題解決を自ら考えて取り組むという意欲を高めることです。

参加しているのは、同学科同コース2年生の68名。学生の中には、ベトナムやインドネシアなどからの留学生約30名、職業訓練生13名も含まれています。ほとんどの学生が、3Dプリンタと3D設計ソフトCAD（キャド）を使うのが初めてということもあり、集中講義（3日間）の初日は、学内にある機器やソフトなどを用いて使い方を修得しました。続いて、事前に考案していた「あったら便利」というオリジナルの介護用具のデザインをCADに落とし込み、実際に3Dプリンタで製作しています。

※3Dプリンタ販売会社、学会などでの論文などによる

記

【集中講義（日程）】

- 7月31日 3Dプリンタ体験、CAD体験
- 8月2、3日（9：10—16：30） グループ① 福祉用具を製作
- 8月4、5日（9：10—16：30） グループ② 福祉用具を製作

【備 考】

作品の中には、取っ手を 2 つにして落ちないようにしたコップや、お椀が安定するように手のひらサイズの福祉用具を考案したものなど独自に考案した作品が生まれています。

片側の手が麻痺している人でもトイレトペーパーが切れやすい用具を考案した新名（しんめい）はるなさん（19）＝飛騨市出身＝は、「身体が不自由な場合、生活の質が落ちてしまうことがあります。自立支援を促しながら、QOL を高められるような用具になるように意識しました。また、花のイメージをしたデザインを取り入れて楽しめる工夫もしました」と話していました。

社会福祉学科長の吉川杉生教授は「介護福祉士を養成している大学として、全国に先駆け、これまでにない新しい着想で、介護の質の向上を目指す介護福祉士を育てていきたい」と意欲を見せています。

以上

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学短期大学部社会福祉学科

吉川 杉生 教授（学科長） TEL 090-2758-1101 E-mail yoshi@chubu-gu.ac.jp

高野 晃伸 准教授 TEL 090-8555-1784 E-mail takano@chubu-gu.ac.jp